



2年ぶりのリアル開催とオミクロンの影響

株式会社クリエイティヴ・ヴィジョン 代表取締役 **加藤 浄海**



1. はじめに

こんにちは、株式会社クリエイティヴ・ヴィジョンの加藤 浄海と申します。当社は毎年1月にラスベガスで開催される世界最大のテクノロジーショー、CESの日本の代理店を務めており、これまでも日本からCESに出展される日本企業の出展のサポートサービスの提供を行い、毎年CESに参加をしてきた観点から2年ぶりのリアル開催となったCES2022についてレポートします。

今年のCES2022はリアル開催が復活する機会でも新しくできたラスベガスコンベンションセンターウェストホールを使

用し過去最大の展示面積で行う予定であった。

しかし、2021年末に発生したコロナウイルス新規株のオミクロンの影響で急きょ、展示会の出展を取りやめた企業が相次ぎ、今までにないCESの様相となった。

2. 来場者、3分の1以下に減少

2021年のCES2021はコロナウイルスの影響でオンラインだけの開催だったが、今回のCES2022はリアルとオンラインを合わせたハイブリッドの展示会となった。

展示会の基本となるのはリアルの展示で、2021年11月の



■ 図1. ラスベガスコンベンションセンターウェストホール

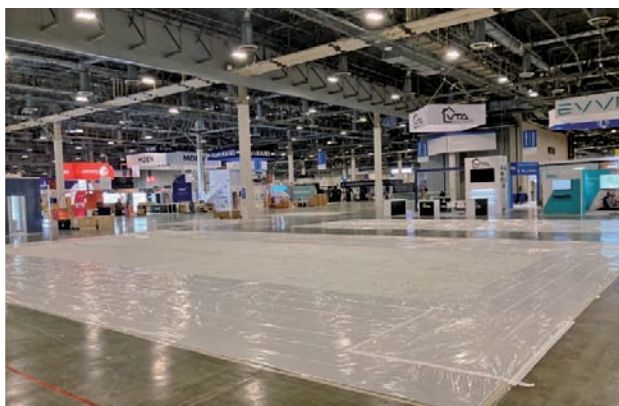
CES2020の会場風景



CES2022の会場風景



■ 図2. CES2020とCES2022の比較



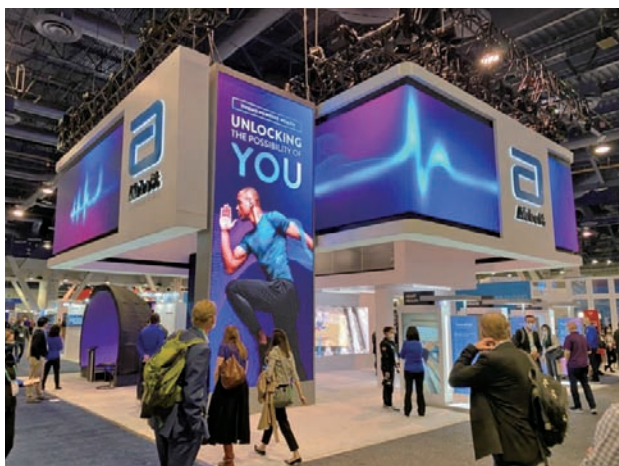
■図3. 出展キャンセルによる空きスペース

コロナウイルスのオミクロン発生までは出展企業が出展スペースを確保して準備を進めていたが、11月のオミクロンの発生後は世界的企業のキャンセルが相次ぎ、来場者数が例年の3分の1以下に陥った。

例年は4,400社以上の出展企業と17万人以上の来場者が世界中から訪れる世界最大のテクノロジーショーだが、今年は1,800社の出展企業と45,000人の来場者となり例年の活気溢れるCESとは全く違う状況だった。

3. コロナ禍をうまく利用したプロモーション

出展企業が減り展示会の規模が大きく減少した今回のCES2022だが、このコロナ禍をうまく利用した企業のプロモーションもあり、その中でもアメリカのアボット社はヘルステックに出展し自社の展示に合わせて来場者に自社のコロナウイルスの検査キットを無料配布し、同社のCEO Robert Ford氏のKeynote（基調講演）もあり、上手く注目を集めていた。



■図4. アボット社ブース



■図5. PCR検査キット（無料配布）

4. 新興国企業の台頭と成長したカテゴリー

CESのトレンドとして自動車メーカーの出展が増えている中で、今回はオミクロンの影響もあり大手の自動車メーカーが急きょ出展を取りやめた中でも、新興国（ベトナム）の自動車メーカー VINFASTは出展していて、リアルの展示に合わせてラスベガスに新しくできたリゾートワールドというホテルの外壁全面にプロモーション映像を流す大掛かりなPRも行い大きな注目を得ていた。



■図6. 新興国電気自動車メーカー VINFAST
（ベトナム Vin group）

また、出展カテゴリーで大きな成長が見られたのがスペーステックで、Sierra Nevada Corporationからドリームチェイサーという宇宙船のリアル展示もあり、宇宙旅行が身近に感じられ宇宙のビジネスは今後も伸びて行くと想像しやすく、特別な世界ではなくなり身近な世界になることがリアルで見ることでより深く理解できた。

VRやフードテックも展示会の開催前までは注目度が高かったが、メタバースの牽引役であるメタの出展が急きょ取りやめになり、VRもフードテックも世界的な企業の出展が取りやめになったことで他の出展社の展示も全体的に縮小された。



5. ユーレカパークの人気は変わらず

CESの中でも集客力のあるカテゴリーの一つに世界中からスタートアップ企業が集まるユーレカパークというカテゴリーがあり、各国がパビリオンを形成して出展してきている。ここには投資家、バイヤー、大手企業などスタートアップ企業と関係を持ちたい来場者が集まり、毎年多くの来場者が訪れている。

今年もユーレカパークには多くの来場者があり、オミクロンの影響で来場者が減っていたが、それでも賑わいを見せていた。

スタートアップ企業の多くは展示会が一つのビジネスチャンスとなるが、大企業のような大掛かりなプロモーションができないので、展示会を有効活用してビジネスチャンスをつかむためにもリアル展示は無くてはならない場所である。その中でも韓国と台湾の成長は著しく、オミクロンの影響で渡航できない日本と比べると、CESでの存在感の大きさ

は雲泥の差で、例年より拡大して出展しており、テクノロジー業界における韓国、台湾の影響力は大きく伸びている。

6. CES2023に期待を寄せて

今回のCES2022は2年ぶりのリアル開催だったが、コロナの影響も残っているので規模の縮小は致し方ないとしてもCESに参加する企業の熱量はしっかりとあり、ビジネスに特化した人だけが来場していたので、出展企業からはビジネスが行いやすかったと聞いている。

それでも世界的に影響力のある企業の出展はほとんど取り止めになっていたので、今までのような17万人以上が世界中から集まる見応えのある展示会ではなかった。

今回はコロナも落ち着き世界中から人が集まり多くの企業が出展する今まで以上の展示会となる可能性が高いので、2023年のCES2023を期待している。



■ 図7. 「ユーレカパーク」の人気は変わらず